

YUIMA NAKAZATO



Couture Collection Autumn/Winter 2024-25

UNVEIL

デザイナーズ・メッセージ

前シーズンに続き、古代ギリシャ時代における戦争とそこにある人間模様を表現する、モーツァルト原作のオペラ「イドメネオ」の舞台衣装をデザインしたことを、改めてコレクション制作の出発点とした。

地中海に囲まれたクレタ島を舞台とした物語を、赤いロープを張り巡らせた舞台美術が表現する。鎧を着た人々がその海を表す赤い紐にまみれ絡まるその姿は、古代も現代も変わらず営まれる人間の有り様を突きつけられるようで、様々な意味を想起させた。

鋼で作られる鎧を、繊細で壊れやすい陶器で表し、プリミティブな楽器のように身体の動きによりドレスが音を奏できるように設計し、戦うための機能が欠落した鎧を表現した。古代ギリシャ時代から5000年の時を経た現代を重ね合わせるため、鎧と呼応する現代の衣服として私はテーラードスーツを選んだ。

本来の機能を失うように、崩れ落ち、ぶら下がり、裏返された状態で体の上で装飾と化し、そして、内側からは繊細な赤い糸を手編みした裏地が現れる。体内を流れる人類共通の色である赤色が黒いスーツの中から立ち現れる。衣服を纏うことが、裸以上に無防備な姿を曝け出すという行為になればと考えた。

戦うという行為において、衣服の機能性というのは最も重要な要素になる。それは、古代も現代も同じだ。そして、今日の大量生産におけるデザインの評価軸もまたこの機能性という要素が重要な価値となる。私は、本来の衣服の意味を真逆にし、機能性を排除し、装飾的なものにしてしまうことで、現代の大きな流れに対する抗いを衣服によって表現しようと考えた。

コレクションの詳細

陶器のひとつひとつは、日本の土を用いて、わたし自身とアトリエメンバーの手で形にしていった。ハンドニットによってアトリエで編み上げられたドレス、コルセット、ベルトなどと合わせ、すべて手仕事に

よって繊細な鎧をつくりあげた。それらを、シディ・ラルビ・シェラカウイが率いるダンサー達が身に纏い踊ることで、音を奏でる舞台装置として用いた。

テーラードスーツは、100年以上続く日本の機屋にて、旧式の織機で織り上げられた、Spiberの開発するブリュード・プロテイン™繊維とウールの生地から仕立てている。裏地は、ハンドニットまたは、一切撚りを入れない絹糸を用いて織り上げられたシルクオーガンジー。プリントは、顔料インクを用いたデジタル捺染技術を用い、水や熱エネルギーの使用を最小化している。

シャツには、ブリュード・プロテイン™繊維とオーガニックコットンの生地で織り上げられた生地を使用している。

装飾には、コードリーで生産されたシルクとコットンのレースを用いた。

数シーズンに渡りエプソンと研究開発を重ねているDFT（Dry Fiber Technology）は、日本の繊維産地において発生する製造時の端材を再生することを試みた。色や素材の仕分けによって、生地に表現される色合いや質感をコントロールし、ドレスやジャケットに仕立てた。

海を舞台としたイダメネオの物語に沿ってMIKIMOTOの黒真珠のジュエリーとハンドニットを合わせてスタイリングに使用している。

中里唯馬

Credits

Creative director: Yuima Nakazato
Show direction/choreography: Sidi Larbi Cherkaoui
Show music: Senjan Jansen
Hair and make up: Hirofumi Kera for Shiseido
Performance: Andrea Bou Othmane
Christina Guieb
Hajiba Fahmy
Mohamed Toukabri
Tsuki Kozuki
Casting: Maida Boina
Show production: Snow White Productions
Show video: Premices Film
Runway photographer: Gio Staiano
PR: KCD Paris

Special thanks to: Spiber
Epson
MIKIMOTO
La Fédération de la Haute Couture et
de la Mode
Eastman
YUIMA NAKAZATO atelier team